



名古屋の偉人伝

No.39

昆虫研究者 松井一郎（まついいちろう）の巻

ここがスゴイ！

名古屋市で、わが国固有の新種のトンボを 1942 年に発見しました！
新種であることが 1951 年に認められ「ナゴヤサナエ」と名付けました。
和名・種名に「ナゴヤ」がついている唯一のトンボです。

★ナゴヤサナエってこんなトンボ！★

『レッドデータブックあいち動物編 2020』（愛知県環境調査センター／編集 2020）
によると、トンボ目サナエトンボ科で、腹部の第 7 から 9 節が著しく広く、第 4 から
7 節の黄色斑が環状斑なのが特徴です。幼虫は、トンボ類としては珍しく塩分への耐性
があり木曽川大堰より下流の汽水域で羽化が確認されています。天敵はハクセキレイ。

こんな人生を送ってきました（経歴）

大正 10（1921）年生～昭和 62（1987）年没。名古屋市生まれ。
大東亜戦争直前から戦中にかけても蜻蛉^{とんぼ}に接し、戦後本格的に研究をはじめられまし
た。早くから会を組織し、この地方の蜻蛉研究の興隆を図りました。『日本産蜻蛉文献
目録』『日本産蜻蛉分布表』などを中日本蜻蛉談話会から刊行し、蜻蛉研究に功績を残
しました。著書『観察の栞とんぼの話』は発行当時にご寄贈いただいた資料です。当
時、蜻蛉研究を網羅的にまとめた研究書はなく、貴重な参考資料となるものでした。

もっとくわしく知りたいあなたに（参考文献）

『なごやの昆虫』（臼田明正／[ほか]編 名古屋昆虫館 1989 年）

『観察の栞とんぼの話』（松井一郎／著 1956 年）

『随想睡生夢死～あるごくらくとんぼのたわごと～』（松井一郎／著 中日本蜻蛉談話会 1981 年）

『なごやの生物多様性第 5 巻』（なごや生物多様性センターPDF 版 高崎保郎「名古屋の蜻蛉研究小史」
名古屋市 HP「暮らしの情報」

https://www.city.nagoya.jp/res/projects/default_project/page/001/034/803/04_houkoku_takasaki.pdf

[最終確認 2025 年 12 月 24 日]